

別添

平成28年度 青少年のインターネット・リテラシー指標等

平成29年3月

総務省総合通信基盤局消費者行政第一課

平成28年度調査結果の概要

【平成28年度テスト結果概要】

- 全体の正答率は67.2%。不適正利用（インターネット上で適切にコミュニケーションができる能力）の正答率が高い（69.3%）が、プライバシー・セキュリティ（プライバシー保護や適切なセキュリティ対策ができる能力）に関する正答率が低い（62.6%）。
- 中分類での不適切利用リスク（2c）の正答率が高く（77.5%）、プライバシーリスク（3a）（60.8%）及び不適正取引リスク（2b）（54.6%）の正答率が低く、プライバシー保護やセキュリティ対策、電子商取引への対処等が引き続き課題。
- 男子より、女子の正答率が高く、特に不適正利用で最も差が大きい。

【青少年のスマートフォンの使用実態】

- 青少年のスマートフォン保有率は年々増加しており、今年度においては全体の94.4%に達している。またインターネット接続機器を保有する青少年のうち89.2%が主にスマートフォンでインターネットを利用している。
- 1日当たりのインターネットの平均利用時間は、スマートフォンの場合、平日は2～3時間、休日は3～4時間の利用が最も多い。休日だけでなく平日の利用時間帯も増加傾向。
- 利用時間のうちSNSが占める割合が6割程度を占めるが、その次に多いのが利用時間1時間未満では情報収集、1～3時間程度の利用者では動画視聴、4時間以上ではオンラインゲームが多い。
- 今回、利用目的で項目を新設した学習での利用はほとんどなかった。

【青少年のインターネット・リテラシー調査結果と分析】

- フィルタリングの意義について理解している青少年や、フィルタリングを利用している青少年のリテラシーが高いため、フィルタリングの必要性、意義等を青少年自らが考える機会を設けることが重要。
- スマートフォン等の利用に対する家庭でのルールがあり、フィルタリングを利用している青少年のリテラシーは更に高くなることから、フィルタリングに対する保護者の意識向上も重要。

1. 青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標 —ILAS(Internet Literacy Assessment indicator for Students)—

- スマートフォンが急速に普及し、インターネットがますます青少年にとって身近になる中、青少年がインターネットを安全に安心して活用するためには、インターネット・リテラシーの向上が急務。
- 総務省では、利用者視点を踏まえたICTサービスに係る諸問題に関する研究会(青少年インターネットWG)の提言(平成23年10月)を受け、リテラシー向上のための前提として、特にインターネット上の危険・脅威に対応するための能力とその現状を可視化するため、これらの能力を数値化するテストを開発。
- 協力を得られた学校等において、平成28年7月から12月にかけて実際にテストを行い、その結果を「青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標(ILAS:アイラス)」として集計・分析・比較した。
- ILASは、地域での周知啓発活動や、事業者による安心安全サービスの提供・改善に役立てるとともに、OECD等における国際的な指標づくりに対して我が国からインプットしていく。

■「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律」(平成21年4月1日施行)

【基本理念】

①青少年の適切なインターネット活用能力の習得(インターネット利用に係るリテラシー向上)、②青少年の有害情報の閲覧機会の最小化(フィルタリングの機能向上・普及、関係事業者による取組み)、③民間による自主的・主体的取組、国等による尊重・支援

■利用者視点を踏まえたICTサービスに係る諸問題に関する研究会(青少年インターネットWG)提言(平成23年10月)

2. 各関係者に求められる役割等 (中略)

行政には、(特にインターネット上の危険への対処に係る)インターネットリテラシーに関する指標を、国際的に比較可能な形で整備し、定期的に公表していくことが求められている。

■青少年のインターネット・リテラシー指標に関する有職者検討会(座長:赤堀侃司白鷗大学教授)(平成23年9月～24年3月)

教育学や法学等に知見を有する有識者の方々からのご知見を踏まえ、特にインターネット上のリスク分類と、これに対応した危険・脅威への対応能力の整理、この能力を明らかにするテストの開発・分析・整理を実施。

(顧問)堀部政男(一橋大学名誉教授)、渡部洋(東京大学名誉教授)(座長)赤堀侃司(白鷗大学教育学部長・教授)、(座長代理)新井健一(ベネッセ教育研究開発センター長)

■利用者視点を踏まえたICTサービスに係る諸問題に関する研究会(スマートフォン時代における安心・安全な利用環境の在り方に関するWG)提言案(平成25年7月)

第三部第3章スマートフォン時代に適したリテラシー向上の取組(1) (中略)

(1)インターネット・リテラシー指標(ILAS)の更なる展開、(2)地域における自立的な周知啓発活動の展開、(3)リテラシー向上に関する国際的な調和の推進

2. ILASの実施概要等

○ 青少年に必要なリスク対応能力の分類

OECDのインターネット上の青少年保護に関するレポートにおけるリスク分類をベースに、インターネット上の危険・脅威への対応に必要な能力（リスク対応能力）に関し、前記有識者検討会において以下の項目に整理）

【青少年に必要なリスク対応能力】

1. インターネット上の違法コンテンツ、有害コンテンツに適切に対処できる能力
 - a. 違法コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる。
 - b. 有害コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる。
2. インターネット上で適切にコミュニケーションができる能力
 - a. 情報を読み取り、適切にコミュニケーションができる。
 - b. 電子商取引の問題を理解し、適切に対処できる。
 - c. 利用料金や時間の浪費に配慮して利用できる。
3. プライバシー保護や適切なセキュリティ対策ができる能力
 - a. プライバシー保護を図り利用できる。
 - b. 適切なセキュリティ対策を講じて利用できる。

○ テスト及びアンケート調査の実施概要

平成28年7月から12月にかけて、全国89の公立・私立の高等学校等において、約14,800名の1年生相当を対象にIDを割り付けた上で無記名形式でテストを実施。併せて、利用している機器やトラブル経験の有無等についてアンケートを行い、クロス集計を実施。

地域区分	所在地区分	設立区分	協力人数		平均点
計11地域	特別区等 14校	国立高専 2校	男性	74,62人	男性 31.7点
	中核市等 20校	公立 81校	女性	73,39人	女性 34.2点
	その他 55校	私立 6校	性別無回答	11人	
	計89校		合計	14,812人	全体 33.0点(49点満点) (100%換算で約67%)

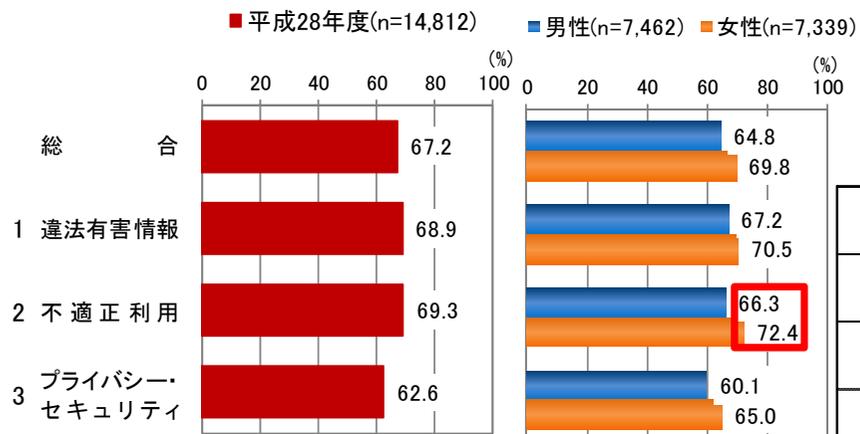
○ 全体の平均点(100%換算)

総合 67.2、1a.違法情報リスク 71.8、1b.有害情報リスク 65.9、2a.不適切接触リスク 75.8、2b.不適正取引リスク 54.6、2c.不適切利用リスク 77.5、3a.プライバシーリスク 60.8、3b.セキュリティリスク 64.3

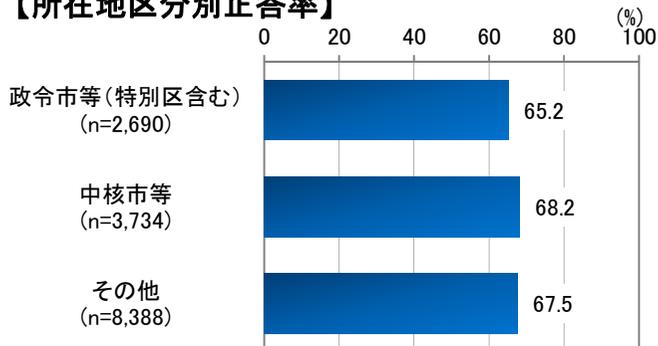
3-1. 平成28年度ILASの結果

- **全体の正答率は67.2%**。大分類においては、**2. 不適正利用**(インターネット上で適切にコミュニケーションができる能力)の正答率が高い(69.3%)が、**3. プライバシー・セキュリティ**(プライバシー保護や適切なセキュリティ対策ができる能力)に関する**正答率が低い**(62.6%)。
- **中分類においては不適切利用リスク(2c)の正答率が高く(77.5%)**、利用料金や時間の浪費に配慮した利用はできるものの、**プライバシーリスク(3a)**(60.8%)及び**不適正取引リスク(2b)**(54.6%)の正答率が低い。
→ **プライバシー保護やセキュリティ対策、電子商取引への対処等が弱点**。
- 男子より、**女子の正答率が高く**、特に、**2. 不適正利用**で最も差が大きい。
- 学校の所在地区別で比較すると、**中核市等に所在する学校において正答率が比較的高い**。

【大分類】



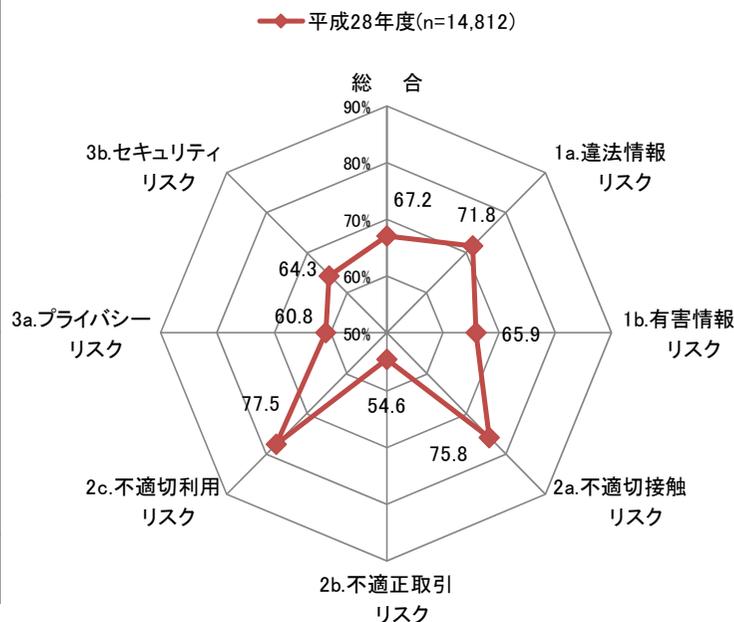
【所在地区別正答率】



【中分類】

全体平均点
33.0点/49点
(約67%/100%)

平成28年度	
回答者人数	14,812人
総合	67.2%
1a.違法情報リスク	71.8%
1b.有害情報リスク	65.9%
2a.不適切接触リスク	75.8%
2b.不適正取引リスク	54.6%
2c.不適切利用リスク	77.5%
3a.プライバシーリスク	60.8%
3b.セキュリティリスク	64.3%



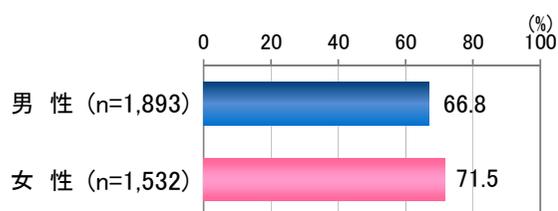
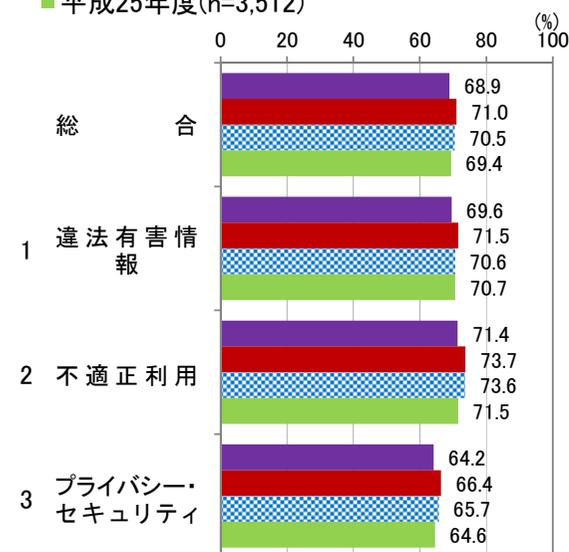
3-2. 平成28年度ILASの結果(参考)

過去のテストとの比較

- 総合の平均点で平成27年度をやや下回った。不適正取引リスク(2b)の正答率が圧倒的に低く、不適正利用リスク(2c)、プライバシー利用リスク(3a)、有害情報リスク(1b)が前年度と比較し低下幅が大きかった。
 → 引き続き、青少年の社会生活に必要な電子商取引に関するリスクへの理解、プライバシーの保護に関する理解が課題。

- 平成28年度(n=3,425)
- 平成27年度(n=3,258)
- 平成26年度(n=3,672)
- 平成25年度(n=3,512)

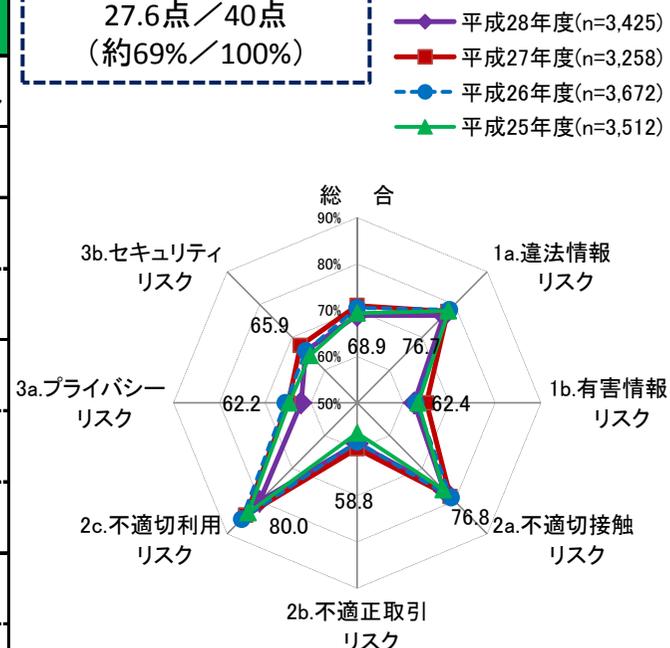
【大分類】



	平成28年度	平成27年度	平成26年度	平成25年度
回答者人数	3,425人	3,258人	3,672人	3,512人
総合	68.9%	71.0%	70.5%	69.4%
1a.違法情報リスク	76.7%	77.9%	78.4%	78.1%
1b.有害情報リスク	62.4%	65.1%	62.8%	63.3%
2a.不適切接触リスク	76.8%	78.6%	78.9%	76.5%
2b.不適正取引リスク	58.8%	59.9%	58.4%	56.5%
2c.不適切利用リスク	80.0%	84.3%	85.5%	83.5%
3a.プライバシーリスク	62.2%	65.0%	65.6%	64.8%
3b.セキュリティリスク	65.9%	67.5%	65.8%	64.5%

【中分類】

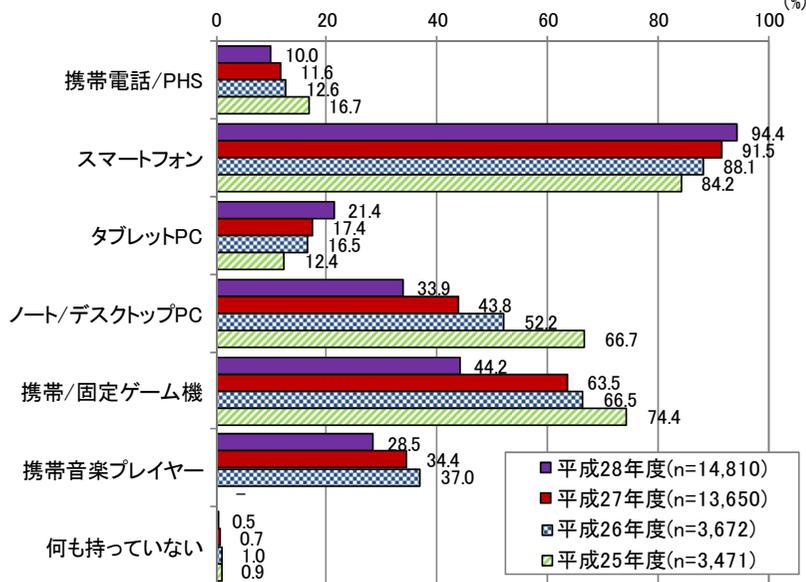
全体平均点
27.6点 / 40点
(約69% / 100%)



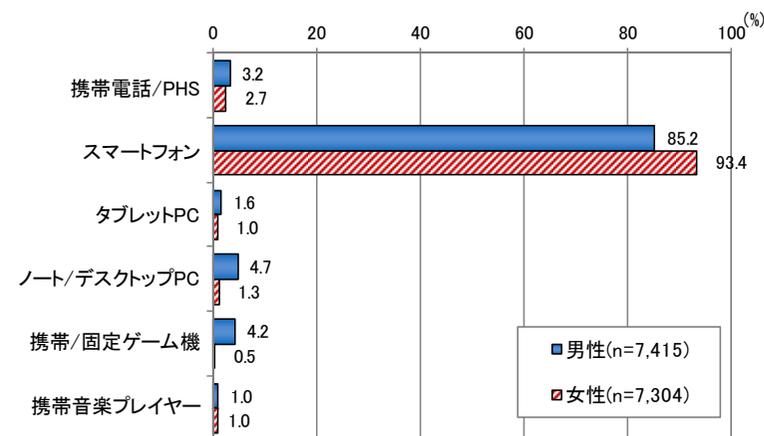
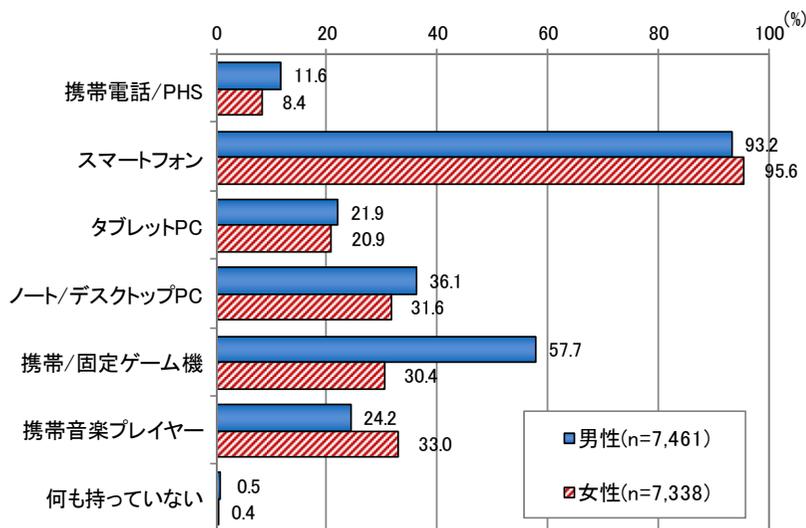
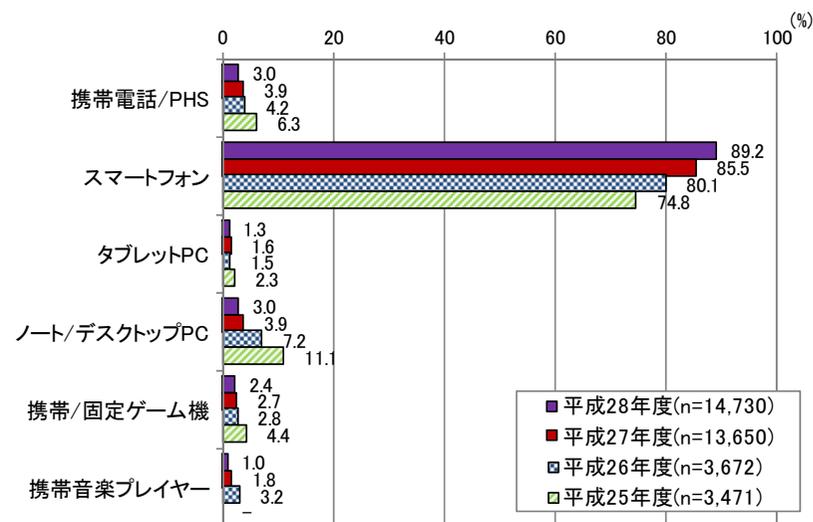
4. 青少年の利用機器の現状

青少年の94.4%がスマートフォンを保有し、保有者の89.2%がインターネットに接続する際、最もよく利用する機器としてあげている。

【保有するインターネット接続機器(複数回答)】(%)

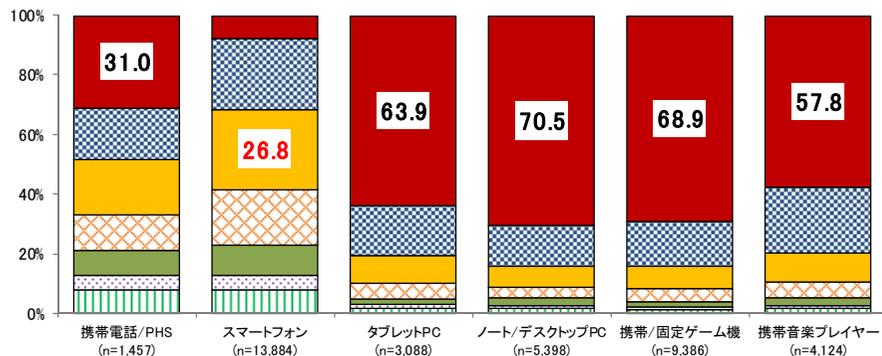


【インターネットに接続する際、最もよく利用する機器(択一回答)】
(インターネット接続機器保有者ベース)



5. 青少年のインターネット利用状況

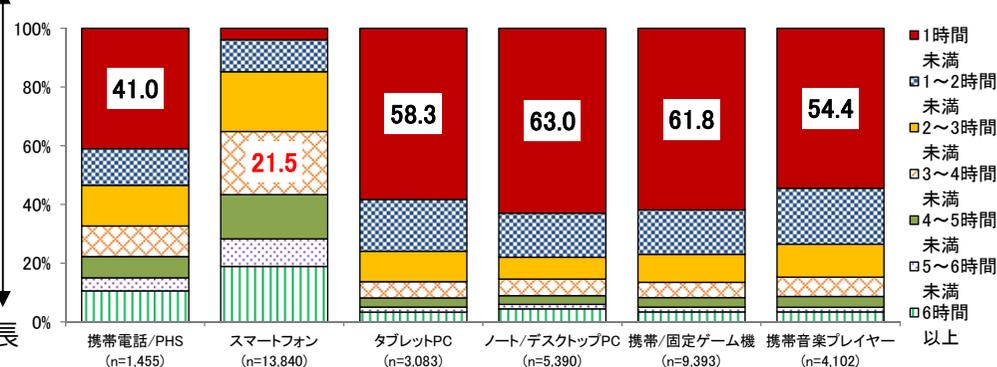
【機器別1日の平均利用時間(平日)】(各機器保有者ベース)



	6時間以上	5~6時間未満	4~5時間未満	3~4時間未満	2~3時間未満	1~2時間未満	1時間未満
携帯電話/PHS (n=1,457)	8.0	5.0	8.4	11.9	18.5	17.2	31.0
スマートフォン (n=13,884)	8.0	4.9	10.0	18.7	26.8	24.0	7.6
タブレットPC (n=3,088)	2.0	1.2	1.9	5.1	9.2	16.6	63.9
ノート/デスクトップPC (n=5,398)	1.8	1.0	2.5	3.7	6.9	13.6	70.5
携帯/固定ゲーム機 (n=9,386)	1.5	0.9	1.7	4.3	7.7	15.1	68.9
携帯音楽プレイヤー (n=4,124)	1.9	0.9	2.5	5.1	10.0	21.7	57.8

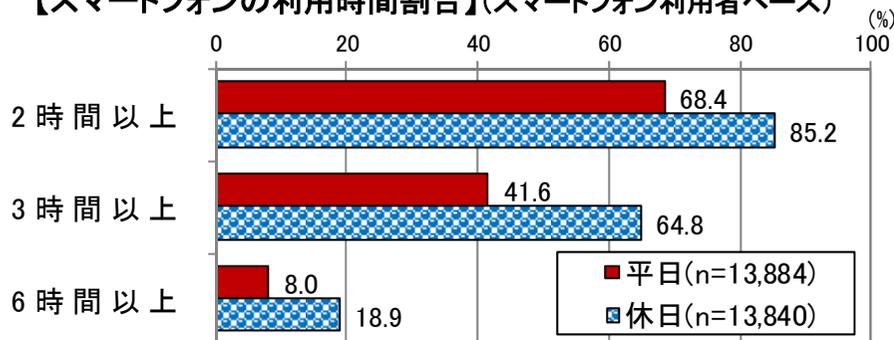
短
↑
↓
長

【機器別1日の平均利用時間(休日)】(各機器保有者ベース)



	6時間以上	5~6時間未満	4~5時間未満	3~4時間未満	2~3時間未満	1~2時間未満	1時間未満
携帯電話/PHS (n=1,455)	10.6	4.5	7.2	10.4	13.8	12.4	41.0
スマートフォン (n=13,840)	18.9	9.3	15.1	21.5	20.4	10.9	3.9
タブレットPC (n=3,083)	3.3	1.7	3.1	5.5	10.3	17.7	58.3
ノート/デスクトップPC (n=5,390)	4.5	1.6	2.9	5.6	7.5	15.0	63.0
携帯/固定ゲーム機 (n=9,393)	3.4	1.6	3.2	5.3	9.5	15.1	61.8
携帯音楽プレイヤー (n=4,102)	3.5	1.6	3.6	6.6	11.2	19.1	54.4

【スマートフォンの利用時間割合】(スマートフォン利用者ベース)



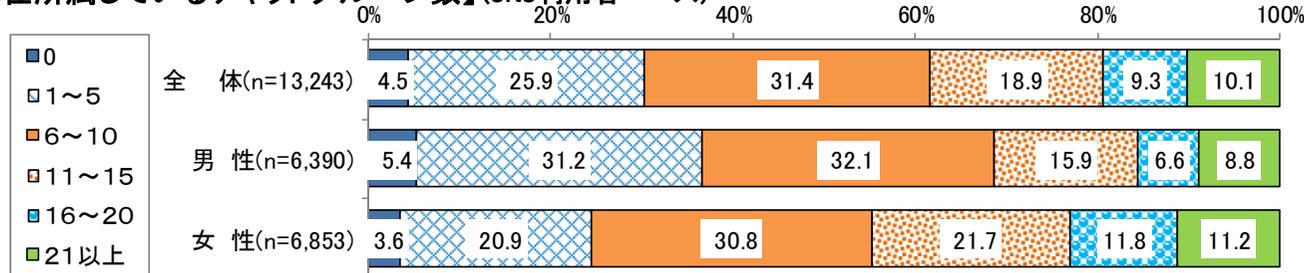
- 1日当たりの平均利用時間はスマートフォン以外は1時間未満が最も多いが、スマートフォンは平日は2~3時間、休日は3~4時間の利用が最も多く、他の機器に比べ利用時間が長い。
- 平日と比較すると休日の方が長時間利用している。特にスマートフォンは休日では2時間以上が85.2%、3時間以上が64.8%、6時間以上では平日の約2.4倍の18.9%となっている。

6-1. 青少年のSNS利用状況など

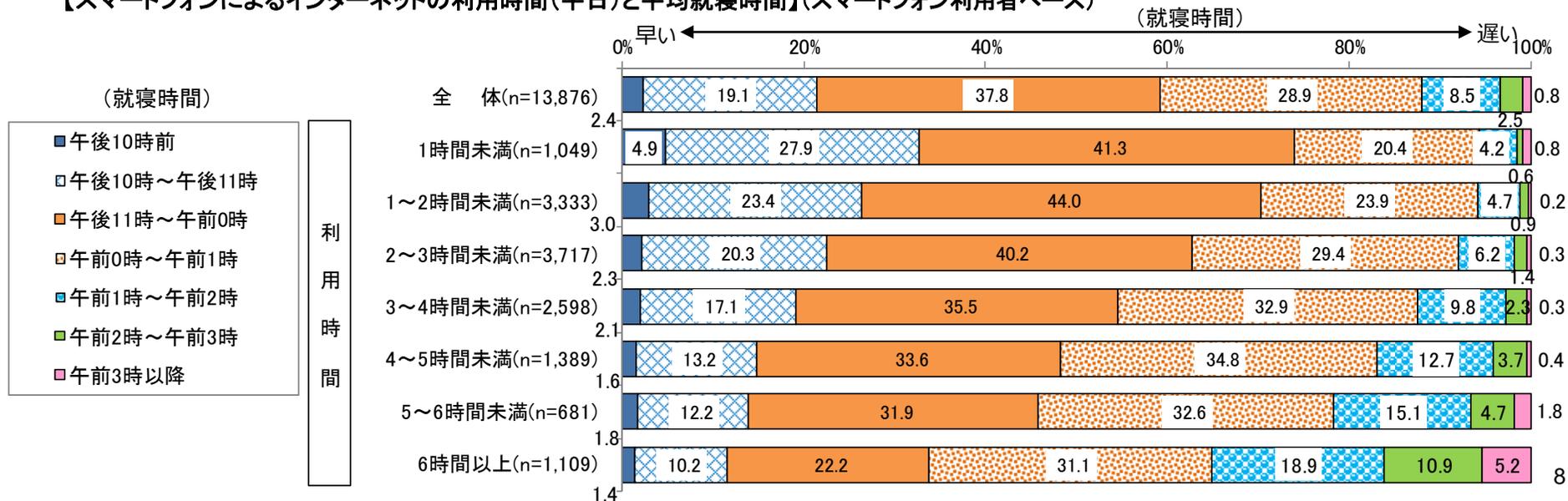
【一度もあったことのないSNS上だけの友人数】(SNS利用者ベース)



【現在所属しているチャットグループ数】(SNS利用者ベース)



【スマートフォンによるインターネットの利用時間(平日)と平均就寝時間】(スマートフォン利用者ベース)



- 約半数の青少年は一度も会ったことのないSNS上だけの友人がおり、11人以上いると答えた青少年は22.0%。また、SNS上だけの友人の平均数は男子よりも女子の方が多い。
- 所属チャットグループ数は6~10が最も多い。
- スマートフォン利用時間が長いと就寝時間が遅くなる傾向がある。

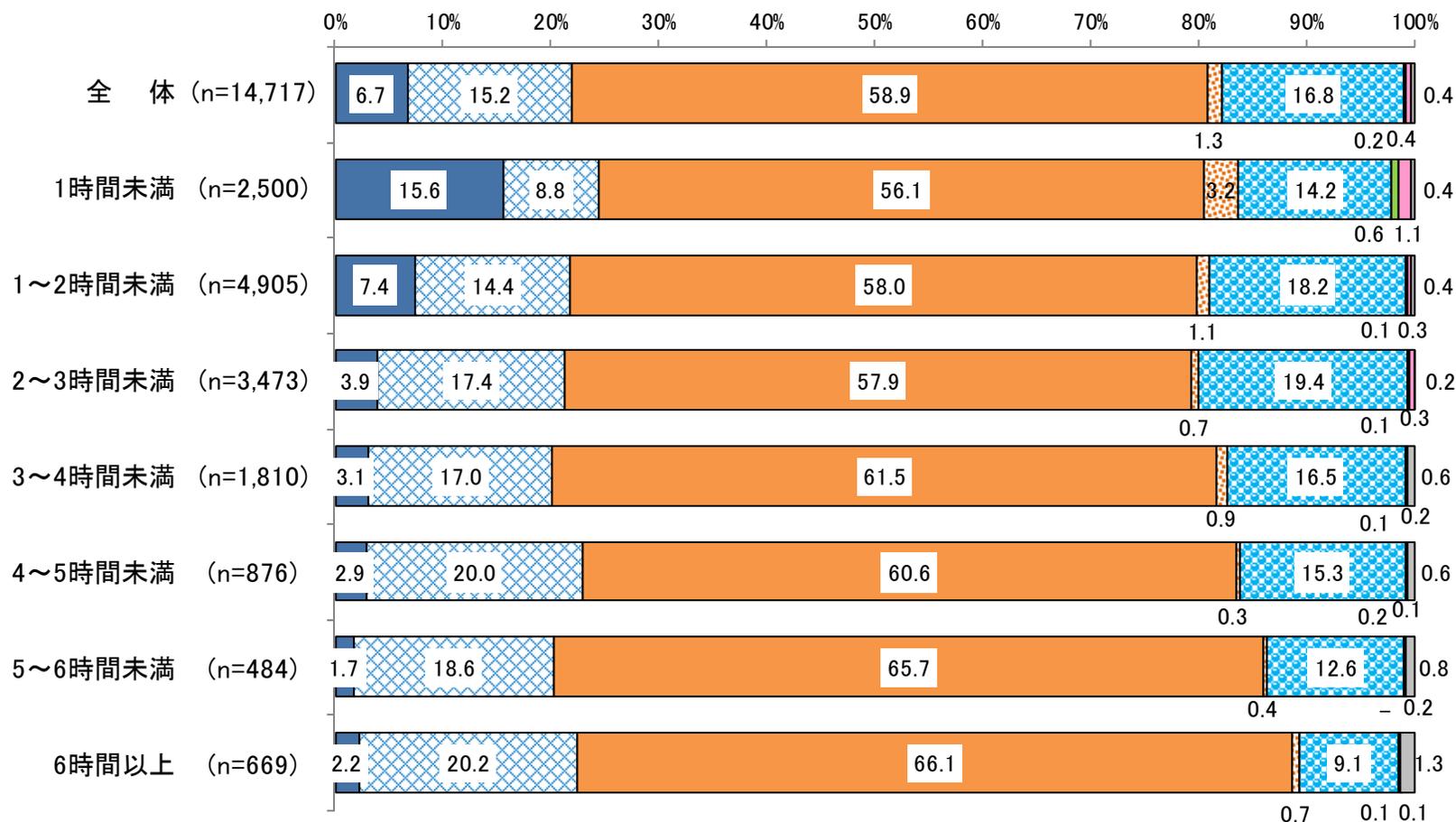
6-2. 青少年のSNS利用状況など

・利用時間のうちSNSが占める割合が6割程度を占めるが、その次に多いのが利用時間1時間未満の青少年では情報収集、1～3時間程度の青少年では動画視聴、4時間以上の青少年ではオンラインゲームとなっている。
 なお、今回の調査で新設した「学習」の目的での利用はほとんどなかった。

【インターネットの長時間利用とネットの利用目的】(インターネット接続機器保有者ベース)

最も利用するサービスの
 平日一日あたりの利用時間

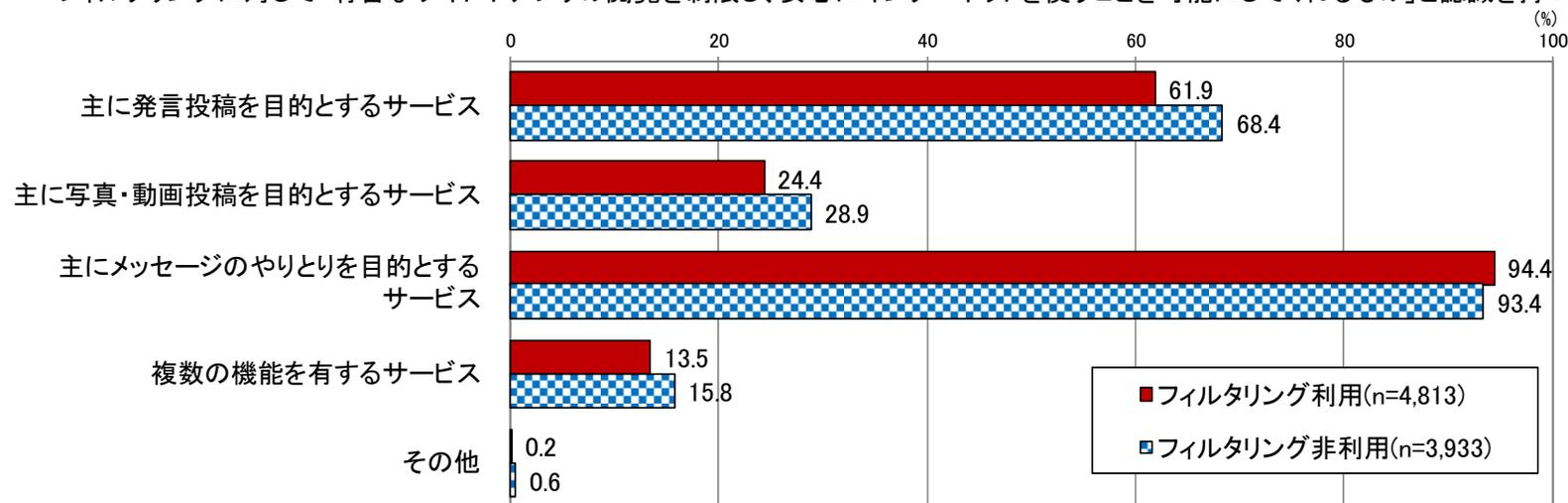
■ 情報収集 ■ オンラインゲーム ■ SNS
 ■ メールのやりとり ■ 動画視聴 ■ 商品の購入等
 ■ 学習 ■ その他



6-3. 青少年のSNS利用状況など

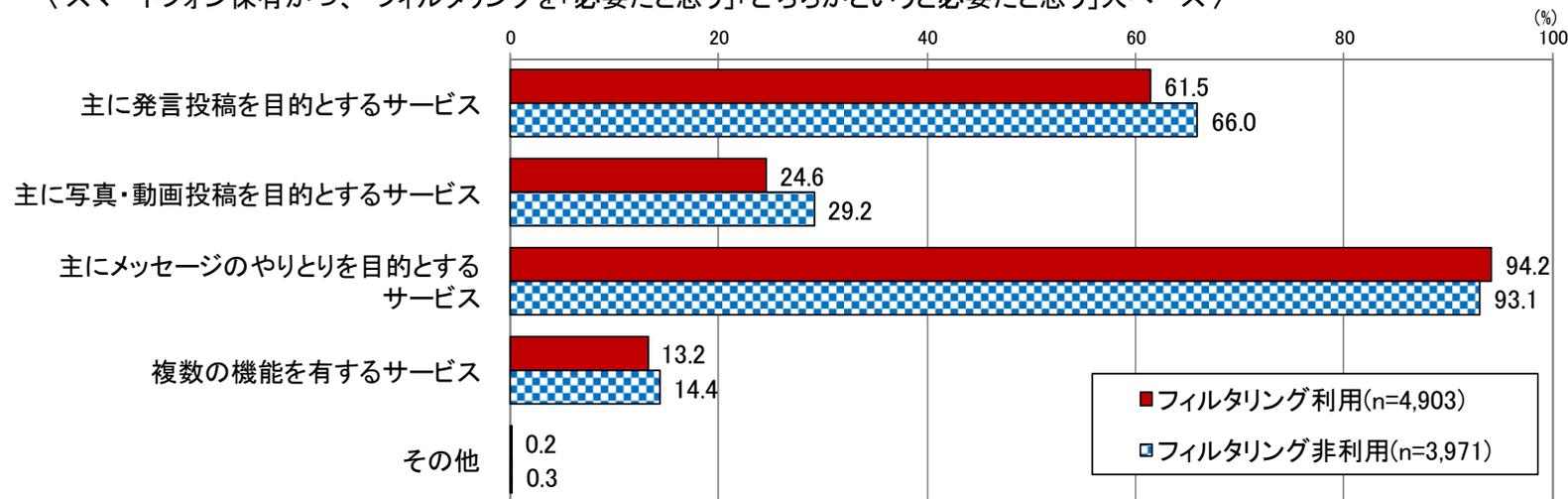
【利用しているSNS:フィルタリング利用有無別】

〈スマートフォン保有かつ、
フィルタリングに対して「有害なサイトやアプリの閲覧を制限し、安心してインターネットを使うことを可能にしてくれるもの」と認識を持つ人ベース〉



(※非利用に利用不明を含む)

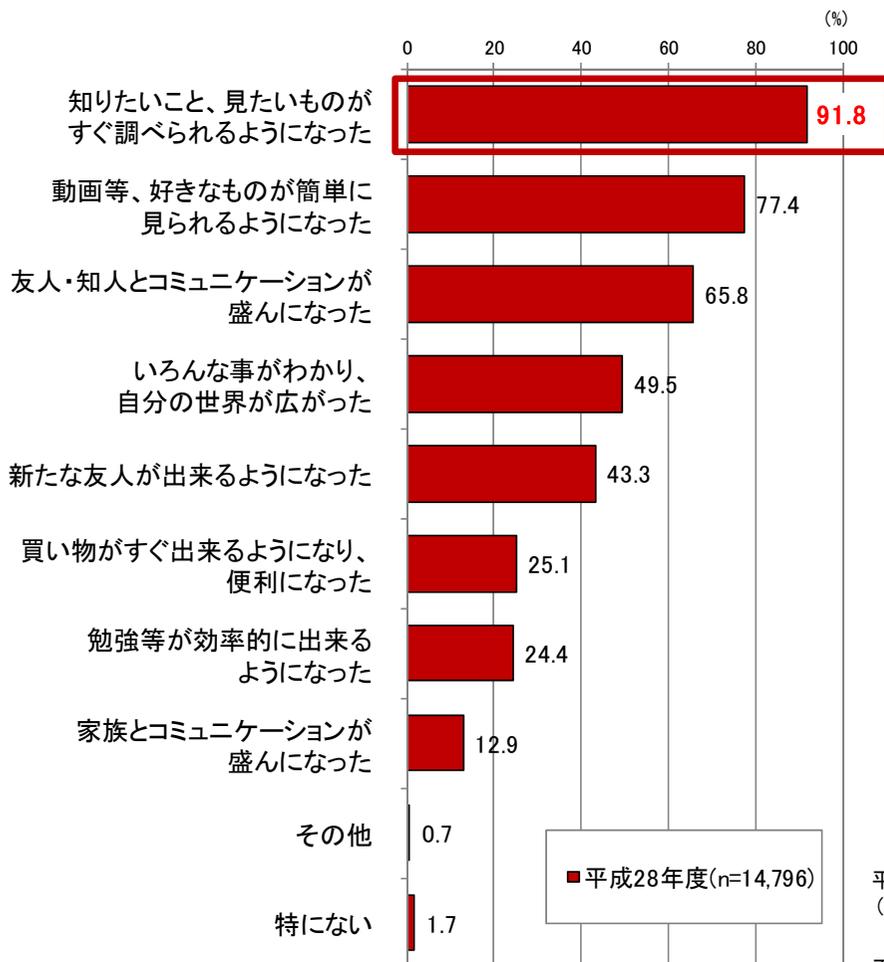
〈スマートフォン保有かつ、フィルタリングを「必要だと思う」「どちらかという必要だと思う」人ベース〉



(※非利用に利用不明を含む)

7. インターネット利用のメリット

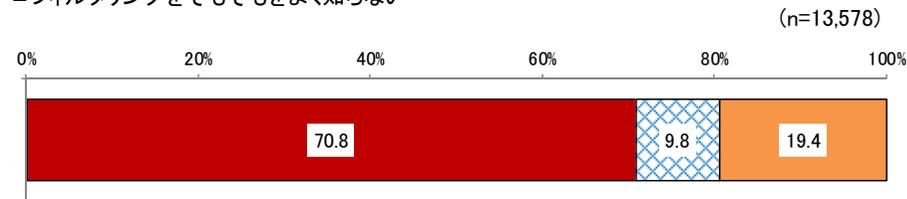
【インターネットを使い出して良かったこと(複数回答)】



・約71%の青少年がフィルタリングを肯定的に捉えており、約77%の青少年がフィルタリングは必要（必要だと思う＋どちらかという必要だと思う）と考えている。
 ・フィルタリング利用率は約48%と時系列でみてほぼ変わらない。

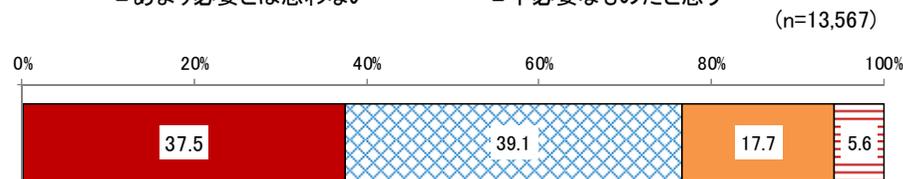
【フィルタリングに対するイメージ】(スマートフォン利用者ベース)

- 有害なサイトやアプリの閲覧を制限し、安心してインターネットを使うことを可能にしてくれるもの
- 使いたいサイトやアプリを利用できなくなる邪悪なもの
- フィルタリングをそもそもよく知らない



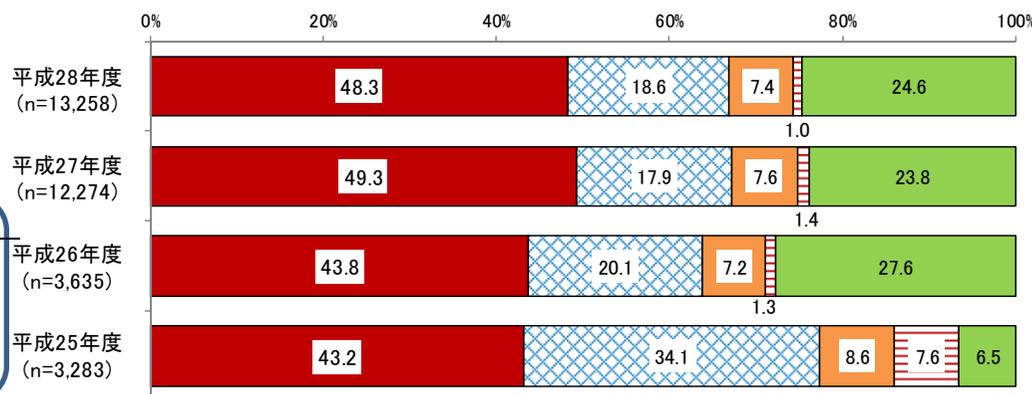
【フィルタリングに対する必要性の意識】(スマートフォン利用者ベース)

- 必要だと思う
- どちらかという必要だと思う
- あまり必要とは思わない
- 不必要なものだと思う



【フィルタリング利用率】(スマートフォン利用者ベース)

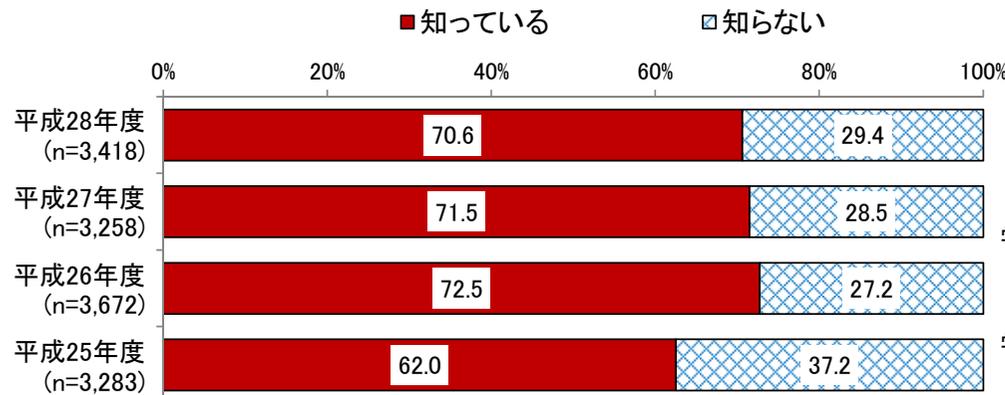
- 利用している
- 利用していない
- 以前利用、今は利用していない
- 利用していないが、今後利用
- わからない



8. フィルタリングの認知・家庭のルールとフィルタリングの利用状況

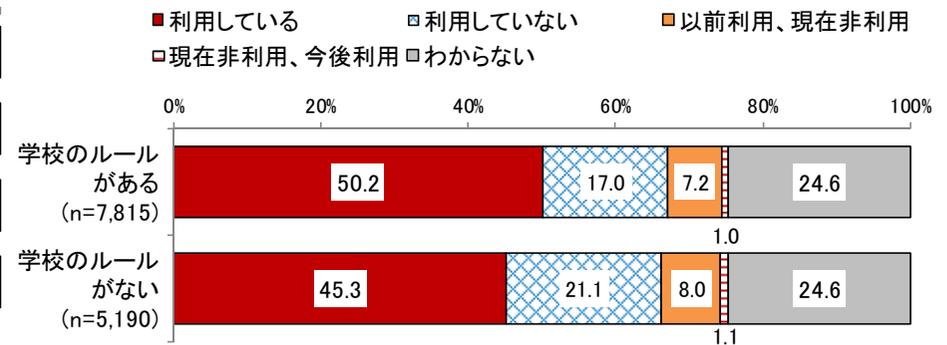
- ・ フィルタリング等は約70%の青少年に認知されている。
- ・ インターネット等の利用について学校のルール、家庭のルールがある青少年の方が、ルールがない学校、家庭に比べフィルタリング利用率が高い。

【フィルタリングまたは機能制御機能の認知】

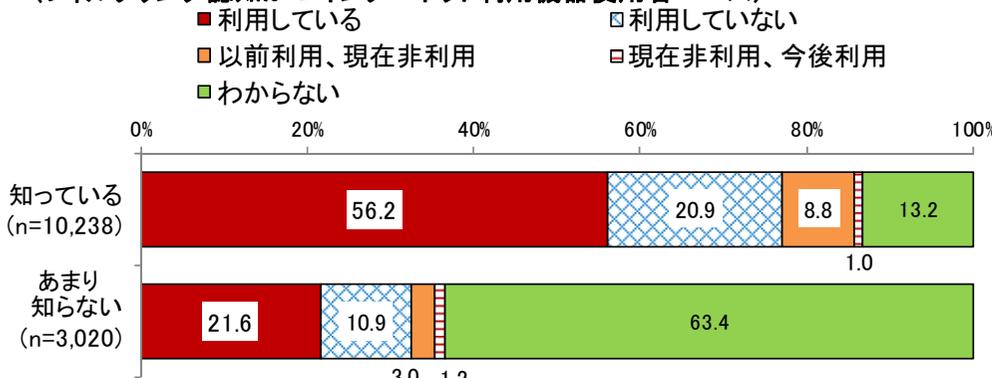


※ 知っている：「よく知っている」と「多少知っている」の合計。
知らない：「あまり知らない」と「全く知らない」の合計

【学校のインターネット利用ルール有無とフィルタリング等の利用状況】
(フィルタリング認知かつインターネット利用機器使用者ベース)

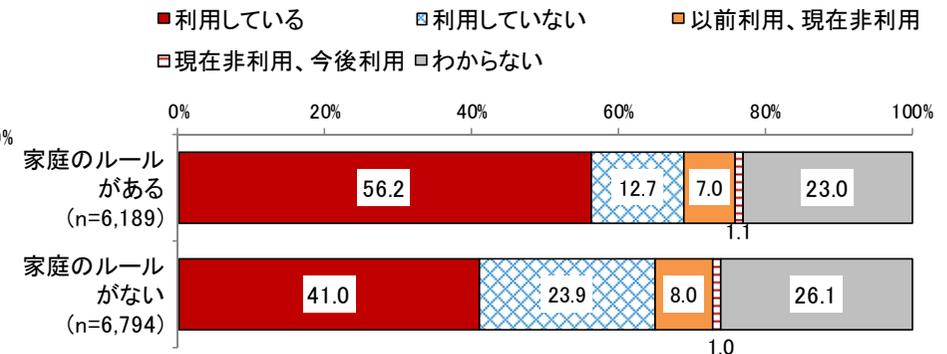


【フィルタリングまたは機能制御機能の認知と利用状況】
(フィルタリング認知かつインターネット利用機器使用者ベース)



※ 知っている：「よく知っている」と「多少知っている」の合計。
※「全く知らない」は、利用状況の設問を聴取していないため、ここには含まれない。

【家庭のスマートフォン等利用ルール有無とフィルタリング等の利用状況】
(フィルタリング認知かつインターネット利用機器使用者ベース)

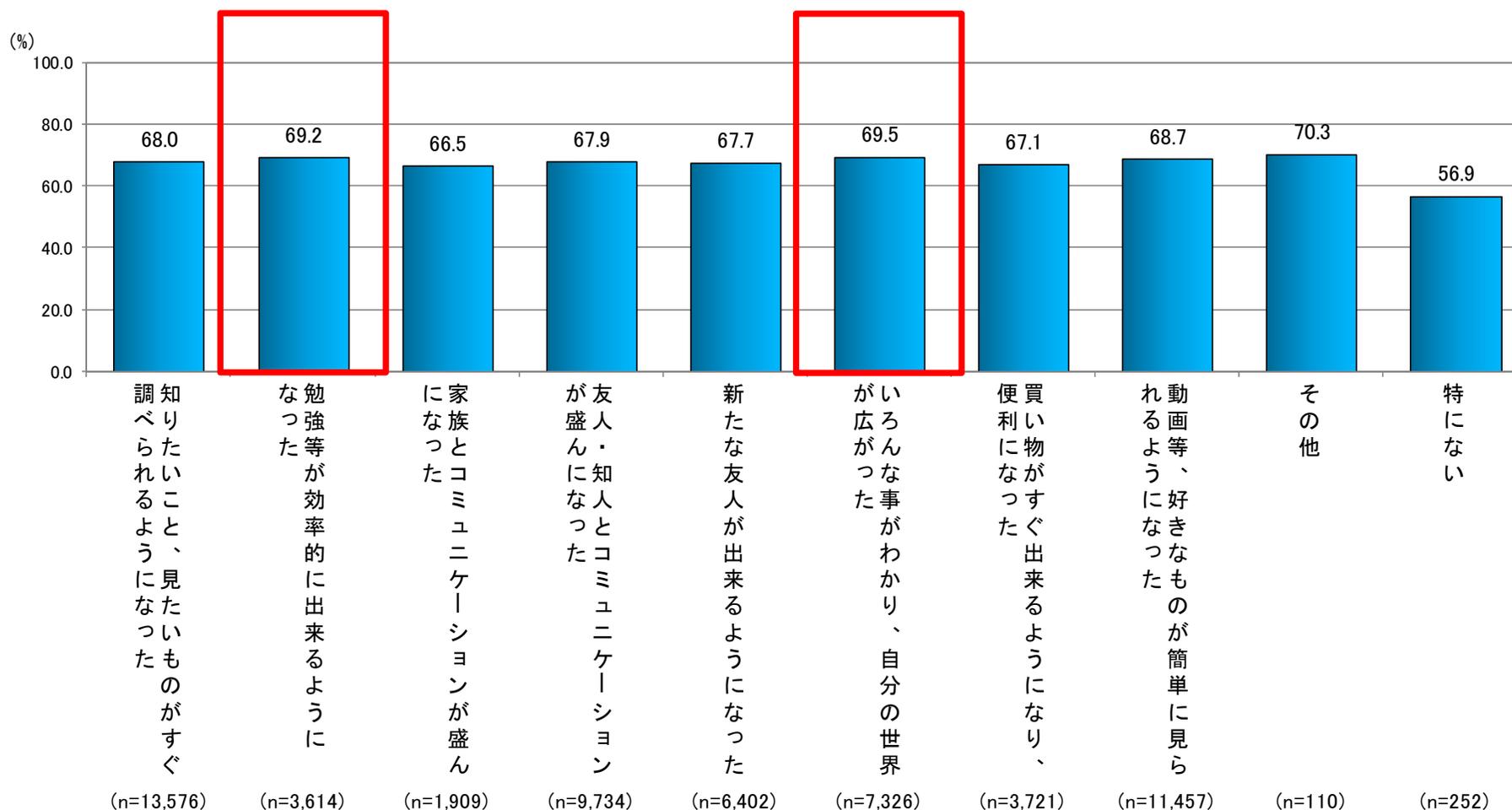


9-1. ILAS指標とアンケート結果との現状分析1

1. インターネットの利用に利点を感じている青少年のリテラシーが高い。

- 勉強等が効率的に出来るようになった、自分の世界が広がった、と感じている青少年の正答率が相対的に高く、特に利点を感じていない青少年の正答率は相対的に低い傾向にある。

【インターネットを used だして良くなったこと別正答率】

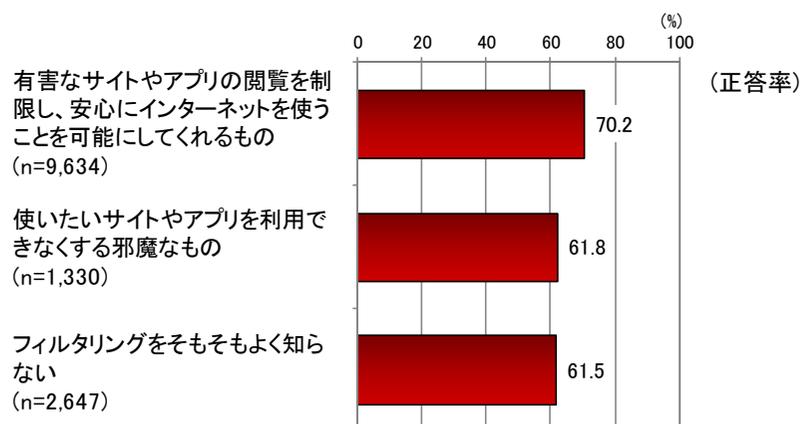


9-2. ILAS指標とアンケート結果との現状分析2

2. フィルタリングの意義について理解している青少年のリテラシーが高い。

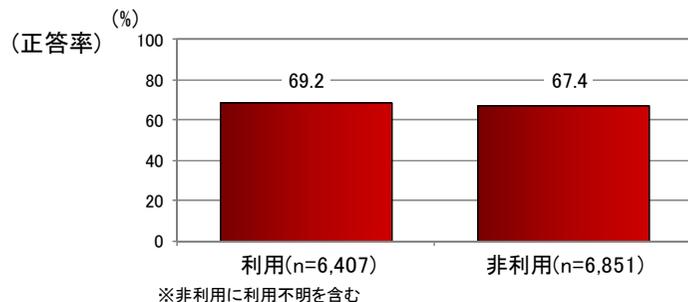
- フィルタリングの意義について理解がある青少年が、フィルタリングを否定的に考える青少年より正答率が高い傾向にある。

【フィルタリングに対する認識別正答率】(スマートフォン保有者ベース)



3. フィルタリングを利用している青少年のリテラシーが相対的に高い傾向がある。

【フィルタリング利用有無別正答率】
(フィルタリング認知かつインターネット接続機器保有者ベース)

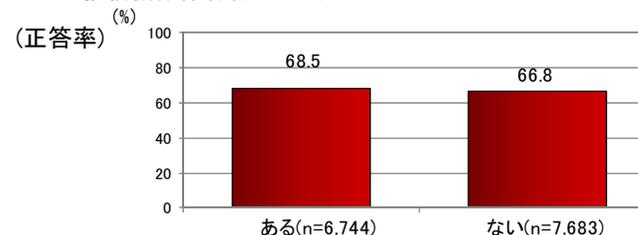


- フィルタリングを利用している青少年は、フィルタリングを利用していない青少年より正答率が高い傾向にある。

4. 家庭でルールのある青少年のリテラシーが高い。

- スマートフォンやSNS利用に関する家庭のルールがある青少年は、家庭でのルールがない青少年より正答率が相対的に高い。

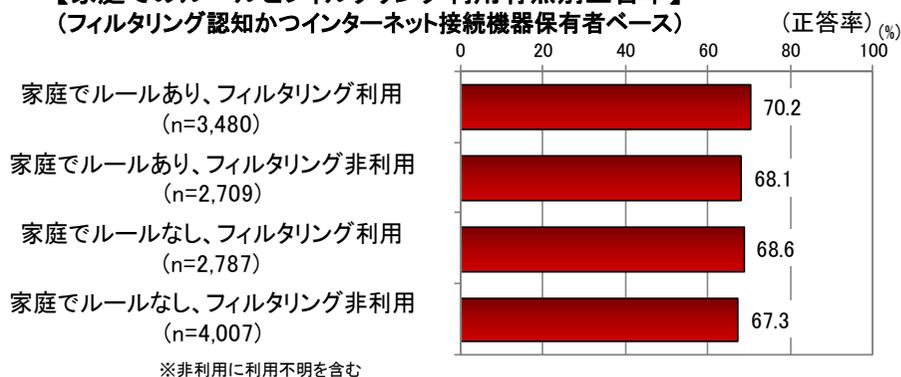
【スマートフォンやSNS利用に関する家庭のルール有無別正答率】
(インターネット接続機器保有者ベース)



5. 家庭でルールがあり、フィルタリング利用の青少年のリテラシーが高い。

- 「家庭でルールがあり、かつ、フィルタリング利用あり」青少年のリテラシーが最も高く、「家庭でルールがなく、かつ、フィルタリング利用なし」青少年のリテラシーが最も低い。また、「家庭でルールがあり、かつ、フィルタリング利用なし」と「家庭でルールがなく、かつ、フィルタリング利用あり」の青少年では同程度。

【家庭でのルールとフィルタリング利用有無別正答率】
(フィルタリング認知かつインターネット接続機器保有者ベース)



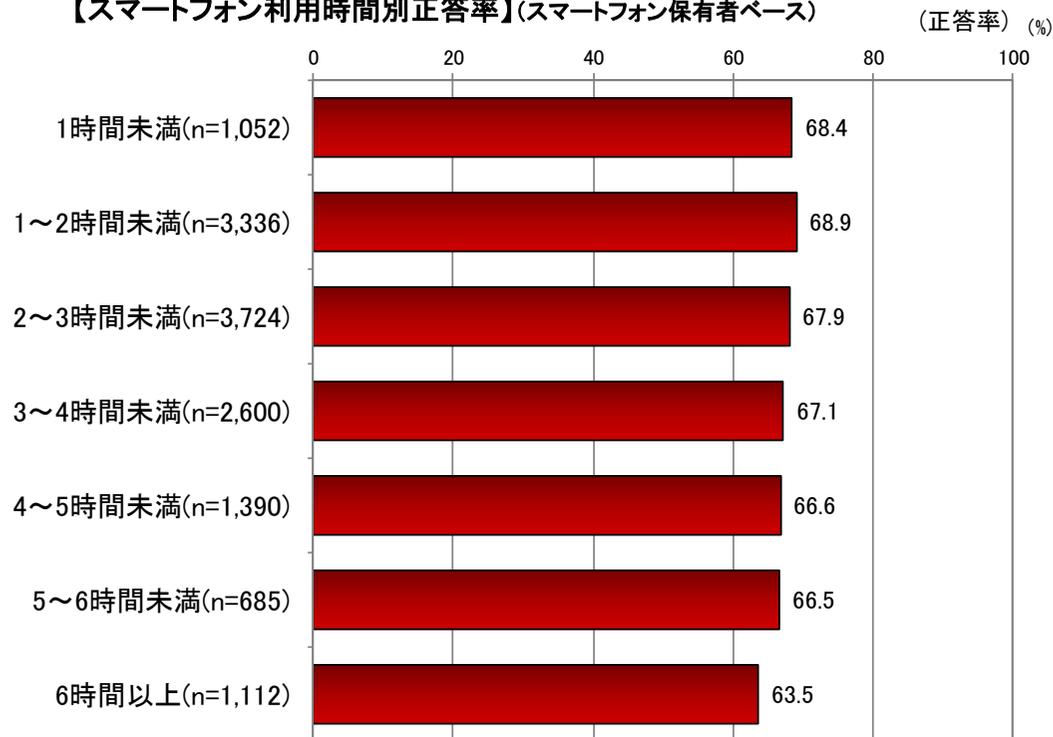
正しいリスク認識、家庭でのルールづくり、フィルタリングの意義等、保護者の意識を高めることが重要。

9-3. ILAS指標とアンケート結果との現状分析3

6. スマートフォンを長時間利用する青少年のリテラシーは低くなる傾向がある。

- スマートフォンの利用時間については、0～3時間程度利用する青少年に比べ、長時間利用する青少年ほど、概ね正答率が低くなっていく傾向がある。

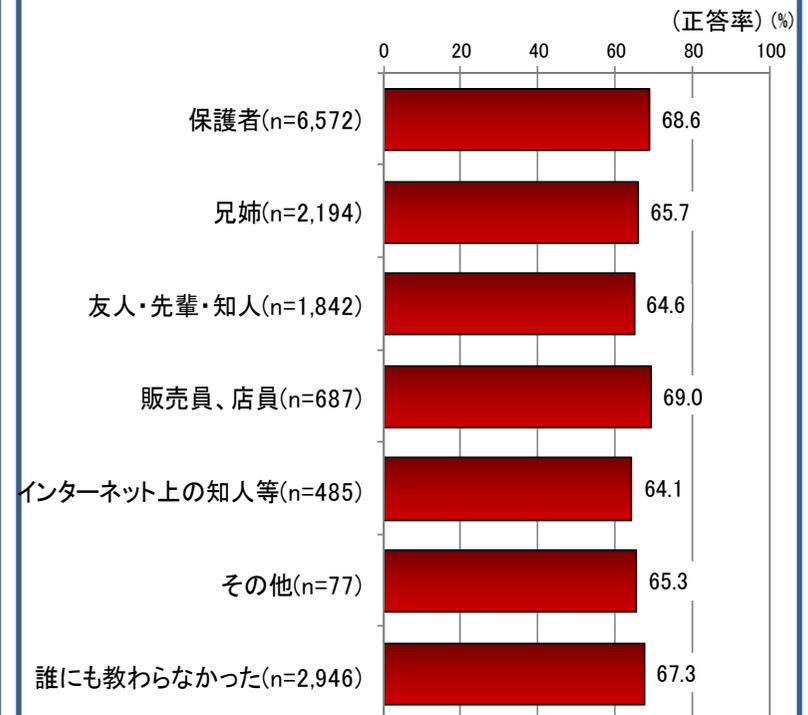
【スマートフォン利用時間別正答率】(スマートフォン保有者ベース)



➡ 長時間のスマートフォンの利用を控え、適度な時間でのスマートフォンの利用が重要。

7. インターネットを使い始めた時に、インターネットの使い方を「保護者」「販売店員」等に教わった青少年は比較的リテラシーが高い。

【インターネットの使い方を教わった相手別正答率】



※「その他」はインターネット、親戚、説明書等。

➡ 家庭等においてインターネットの使い方を教える環境づくりが重要。